

令和6年度 山形県立山形東高等学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

○ 学校の教育目標 1 創造力に富み、心豊かでたくましい人間の育成 2 自主的・自律的に行動できる、個性豊かな人間の育成 3 広い視野を持ち、国際社会に貢献できる人間の育成
○ 本年度の評価 【評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった】

	重 点 目 標	具体的目標・評価指標	自己 評価	今年度の成果と課題	次年度への改善点	学校関係 者評価	学校関係者の意見・要望
学 習 指 導	【探究型学習の推進による学力の向上】 1 自立した学習者を育成するため、自ら課題を発見し解決を図る探究型学習を学校教育全体で推進する。 2 全ての生徒の基礎学力充実のために、授業中心主義を徹底する。 3 生徒の授業評価等をもとに授業改善や研究授業を通した授業力の向上を図る。 4 授業及び家庭学習において生徒用1人1台端末等のICTの効果的な活用を促進する。 【読書習慣の形成と感性教育の推進】 5 読書を心の糧とすべく、生徒が利用しやすい読書・学習の環境を整備する。 6 芸術鑑賞の機会を多く設け、豊かな感性を養う。 7 探究型学習にも対応する図書館環境を整備し、その活用を支援する。	・授業改善に向けて、各教科で研究授業を年1回以上行う。また、他教科授業の互観を複数回行う。 ・毎日の家庭学習時間について、年次＋2時間以上を目標に取り組ませる。 ・生徒の探究活動の成果として校外発表を、年間のべ100件以上行い、東北ブロック以上の大会で入賞をめざす。 ・読書を推奨し、年間一人平均15冊以上の読書量をめざす。 ・校内読書感想文コンクール等への積極的な応募を促し、提出率100%をめざす。 ・教科学習及び読書のための図書館及び図書資料の利用を積極的に推進する。	B	・授業改善の方向性を再検討した。 ・探究活動の成果を校外発表でのべ253件発表され大幅に目標を上回った。また、世界大会のブロック予選に出場するなど成果が見られた。 ・家庭学習における課題の量について、生徒の実情に合わせ、教科や年次と連携し改善が図られた。 ・配信型で、積極的に情報を発信するとともに、図書館の適切な利用を推進した。 ・図書委員会は、山東祭での古本市など意欲的に取り組めた。	・教育の方向性に関する議論を継続し、教員間の情報交換を密にしていきたい。 ・ほとんどの生徒が何らかの形で外部発表を行うことができた。今後も質の向上を目指したい。 ・部活動等を含めた生活リズムが大切である。適切な課題の量だけでなく、質の向上を目指し教科・年次と連携していく。 ・クイズ大会の時期と内容を見直し、新入生をメインに参加者を募って行った。次年度も継続の予定。	A	・探究活動について、量(件数など)に加え質的な向上の評価方法も重要になってくると思われる。 ・生成AIなどを使用し、情報が簡単に入手できる時代だからこそ、改めて読書の大切さについて伝えていただきたい。 ・探究型学習のほか充実した授業が行われていると思われる。
進 路 指 導	【キャリア教育の推進と進路指導の充実】 1 生徒が自己の在り方生き方を考え、進路選択・決定とその実現に向けた努力ができるように、「学びのストーリー」に基づいたキャリア教育を推進する。 2 3年間を見通した進路指導を行うため、各年次で必要な指導について共通理解を持って進める。 3 大学入学改革に対応し、高い進路志望を実現するための指導方法について研究を深める。	・難関大および医学部医学科の合格者70名以上をめざす。	B	・校内に「学びのストーリー」を掲示する等、引き続き生徒や教員の意識を高めたが、今後も具体的な指標を設定、共有して指導にあたる必要がある。 ・今年度も東北大オープンキャンパス参加や東大キャンパスツアー等を企画・実施し、高い志望層の厚さを維持している。 ・3年次と協力しながら学校推薦型・総合型選抜への全職員での指導を行うことができているが、早期の学力完成や出願書類の完成は引き続きの課題。 ・郷土研修を含め、1年次前半での職業観の涵養を中心としたキャリア教育事業を今年度も行った。	・学力考查を含む本校としての進路指導の意義や効果を常に議論し、教員全員が自信を持つてそれぞれの生徒指導に当たることができるようにしたい。 ・年々増加する学校推薦型・総合型選抜入試の出願にあたっては、より効率的かつ効果的な方法をとることができるよう研究し、改善する。	A	・東北から世界で活躍できる人材を育成する、という視点からも東北大学とは、連携をこれまで以上にすすめていただき、優秀な生徒を送り出していきたい。 ・総合型選抜入試などの増加により、早期に進路が決まる生徒が増えてくるが、卒業までの間、学びの意欲を保たせる指導をお願いしたい。 ・生徒の希望に沿った指導が行われていると思う。 ・東北大が国内第1号の「国際卓越研究大学」に認定された。東大、京大など遠隔地の難関大学に挑戦できる指導に力を入れるのはもちろん、東北地方の特色ある各大学とも連携し、東北や山形をもち立てていけるような進路指導を心がけてほしい。 ・大学を卒業した後のキャリア形成について考える機会を設けていただいていることは素晴らしい。社会に出てからどのように生きるかを、考える機会を大切にいただきたい。
生 徒 指 導	【いのちの教育と生徒指導の充実】 1 かけがえのない自分の「いのち」と他者の「いのち」を尊重する姿勢を育む。 2 生徒理解を図るとともに家庭との連携を深め、健全で充実した学校生活の基盤を形成する。 3 生徒会活動と部活動を充実させ、自己実現を図り、連帯感を醸成する。	・「いのち」にかかわる重大交通事故がゼロとなるよう、事故の未然防止に努める。 ・毎月の出席率平均について99.0%以上をめざす。 ・部活動等で団体5種目以上、個人種目10人以上の全国大会出場をめざす。 ・社会参加・ボランティアに関連する各種情報を定期的に紹介し、参加しやすい環境を整える。	B	・各種特別活動や行事等において、感染症や熱中症、天候の変化等注意到意を払いながら、臨機応変に対応し、主体的に活動に取り組むことができた。 ・新型コロナウイルスの流行以前よりも学校を休むことへの抵抗感がなくなっているように思われる。	・安全・安心な学校生活の実現に向け、SNSの利用や交通安全への注意喚起を徹底していく。 ・目標に向かって努力しながらも、心身ともに無理のない学校生活が送れるよう、保健課などと連携していく。	A	・部活動でも頑張っている様子がうかがえる。 ・心身に不調がある生徒が教職員に相談しやすい環境を今まで以上に整備していただきたい。 ・2025年度予算案に高校の授業料無償化に関する予算が盛り込まれた。本県の高校教育にどのような影響が生じるのかについてはまだ不明の点が多いだろうが、生徒指導面では意識してほしい。
健 康 安 全 ・ 環 境 整 備	【健康の保持・増進と安全・安心な学校づくり】 1 生徒及び教職員の心身の健康の維持・増進を図る。 2 危機管理体制をハード・ソフト両面から整備し、災害・事故の防止に努める。 3 学習環境の整備・保全とその美化に努める。 4 感染症及び熱中症等の予防対策を講じ、生徒の安全確保に努める。	・生徒保健委員会の「生徒保健だより」年間8回、保健課発行の保健室だよりを年間8回発行して、心身の健康の保持増進を図る。 ・年18回のカウンセラー相談日を設定し、生徒・保護者との教育相談活動を充実させる。 ・清掃徹底日（毎週水曜日）と月例大掃除の取組みにより、校舎内外の環境美化に努める。 ・防災・災害対応訓練を年4回行い、危機管理意識の高揚と生活・校舎の安全を図る。	A	・保健だより等は予定どおり発行することができた。 ・サポート委員会を年間4回開催し、支援を必要とする生徒への共通理解を図ることができた。 ・ゴミの分別を徹底し、生徒や職員の環境保全意識の向上を図ることができた。 ・防災・災害対応訓練を年4回実施することができた。定期的(毎月1回)に校舎の安全点検を実施することができた。	・学校行事における感染症対策の徹底を図る。 ・職員間の連携を密にし、全職員の共通理解のもと、生徒の支援にあたる。 ・日常的な清掃活動、ゴミの分別に取り組み、校舎内外の環境美化を進める。 ・校舎の老朽化に伴い、危険箇所や修繕箇所が発生する可能性が高まっている。安全点検等を通して情報収集に努める必要がある。	A	・施設の老朽化の中で、生徒への心身への影響も含めトイレ改修が最優先事項ではないか。 ・予算が限られる中、校舎の老朽化対策に関しては優先順位を的確に判断して修繕を進めてほしい。 ・校舎の老朽化が目立つことが、保護者アンケートの評価点からも伺えました。ぜひ、解決に向けてご尽力いただきたいと思う。
家 庭 地 域 の 連 携	【地域連携の促進と郷土愛の醸成】 1 地域の魅力や課題をよく理解し、郷土やまがたに対する誇りと愛着を持った生徒を育てる。 2 探究活動や社会参加活動において、地域との連携と外部人材の活用を促進する。	・PTA総会・研修会（公開授業を実施）の出席率70%以上をめざす。 ・PTA会報を定期的に発行するとともに、保護者・学校評議員等の意見を聴き、経営改善に努める。	A	・PTA総会は、1年次86.9%、2年次81.3%、3年次81.4%の出席率で、全体で83.2%の出席率であった。 ・年次PTA研修会も、1年次84.0%、2年次78.2%、3年次82.0%の出席率で、全体で今年度も高い出席率であった。 ・PTA会報の発行(年2回)、学校評議員との懇談会(年2回)は予定通りに行うことができた。	・各種アンケートや行事等を通して、保護者や地域の意見をお聞きし、学校・家庭・地域との連携強化に努める。 ・地域で活躍する卒業生や県内企業・研究機関とのネットワークの整備をすすめ、より充実した企画を通して、郷土愛のさらなる涵養に努める。	A	・特になし
学 校 運 営		・ゆとり創造運動を推進し、行事や講習等に伴う代休措置の取得率100%をめざす。 ・「エコ・環境保護」を合言葉に水道、光熱費及び消耗品費等の節約に努める。	B	・土曜講習等の勤務振替措置の取得率は各年次とも100%であった。 ・光熱水費等は前年度を下回る見込みである。	・業務の効率化等を通し、働き方改革を一層推進する ・法令等で定める環境基準を順守し、冷暖房設備の適正稼働に努める。	A	・生徒の部活動等の活躍を拝見すると、指導にかかる負担も多いのではないかと推察する。外部人材の活用なども一層推進していただき、先生にも活き活きた姿で生徒に接してほしいと思う。